和歌山を 創る新聞 わかつく

隔週金曜掲載

Vol.67

責任編集 わかつく

特定非営利活動法人
わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL073-424-2223 /FAX073-423-8355
e-mail info@wnc.jp URL http://www.wnc.jp/
制作 / 編集　志場久起

SAVE JAPAN プロジェクト 2013

川に足を浸し、カジカガエルの声を聴こう

美しい棚田が広がる風景は、日本人の誰もが懐かしく感じるのではないでしょうか。
この夏、橋本市北部にある棚田で、夏休み中の子どもたちにとって嬉しいイベントが開催されます。

夏休みに楽しみませんか

これは「SAVE JAPANプロジェクト」の一環として、橋本市のボランティアグループ「はしもと里山保全アクションチーム」が中心となって開催するものです。

7月21日（日）と8月25日（日）に先着50名を対象に実施し、現在参加者募集中です。

今回の会場となる棚田は、長年同グループが地元住民と共に守ってきたものです。そのおかげで、棚田周辺は多くの生物が生息しています。

当日は多くのボランティアのサポートのもと、小川でカジカガエルの声を聴いたり、田んぼでトノサマガエルの観察を予定しています。

夏の素敵な思い出づくりに、子どもたちの夏の自由研究に、そして里山保全活動を知るために、一度参加してみては？

SAVE JAPANプロジェクトとは？

47都道府県のNPOと地域住民、それに損保ジャパン・日本興亜損保が一緒になって、全国各地で「いきものが住みやすい環境づくり」を行うプロジェクトです。

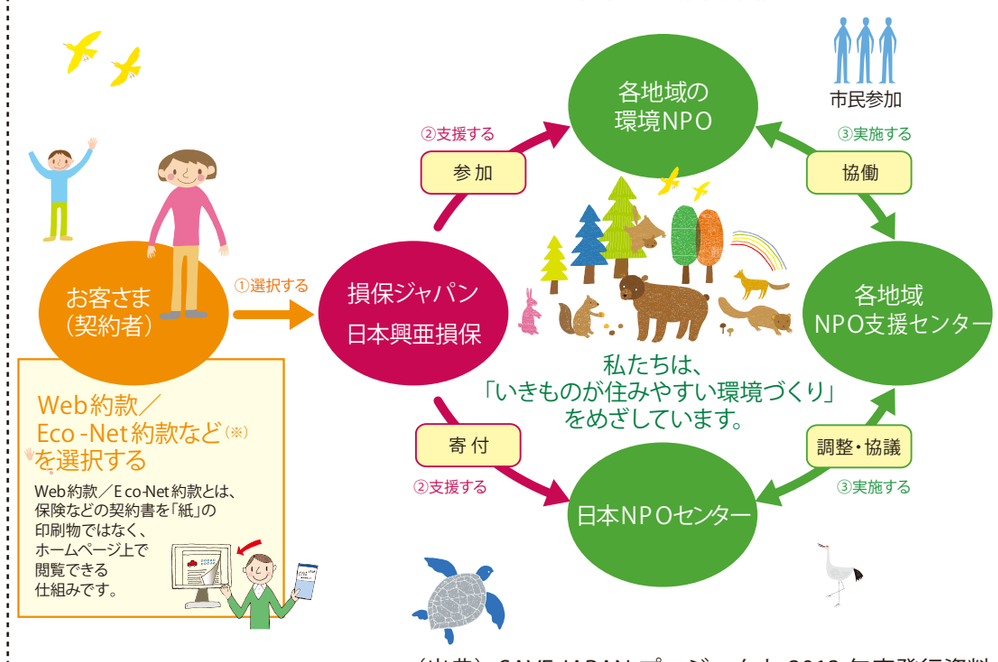
各地域で活用している環境NPO、各地域のNPO支援センター、日本NPOセンター、損保ジャパン・日本興亜損保の4者が協働で実施しています。

ここでいう「NPO支援センター」とは、NPOの分野を特定せず地域のNPOの支援（主に団体・組織の支援）を行っている団体で全国で334団体が活動しています。

企業、NPO、地域の団体が連携して実施する環境保護事業。このような輪がもっと広がるといいですね。

（植田祐起代）

SAVE JAPAN プロジェクトの仕組み（概念図）



（出典）SAVE JAPAN プロジェクト 2013 年度発行資料

川に足を浸し、カジカガエルの声を聴こう

開催日

第１回　7月21日（日）　申込締切７月16日
第２回　8月25日（日）　申込締切８月19日

・活動内容はどちらも同じです。
・両日とも雨天決行。天候不良の場合は、柱本集会所で「座学」を中心とした活動を行います。
・当日朝６時時点で、橋本市に暴風・大雨・洪水のいずれかの警報が発令中の場合は中止。

■実施場所　橋本市柱本芋谷周辺棚田
■参加費　無料
■持ち物・服装　水辺に入りますので、長靴・タオル、軍手、暑さ対策のため帽子や飲み物など。必要に応じて着替えの用意もお勧めします。
■定員　各50名（事前申込み必要・小学校４年生以下は保護者同伴でお願いします）
共催：はしもと里山保全アクションチーム、わかやま NPO センター、日本 NPO センター
協賛：損害保険ジャパン、日本興亜損保
■申込み　SAVE JAPAN ウェブサイト
http://savejapan-pj.net/ からお申込みください。

みんなでつくる情報板

わかやまイベントボード

●あわたまな夜 vol.5

4月6日に荒天等のため延期なったライブ。

日時　6月29日（土）19:00～
場所　Cafe ざっか屋あわたま（和歌山市毛見）
出演　中川五郎さん、松本陽太さん、NO∞無のみなさん
参加費　2000円（1ドリンク付）
問い合わせ　Cafe ざっか屋あわたま（073-444-2239・高橋さん）

●シンポウム「地域資産継承への気付き」

地域の様々な資産を次世代に継承するあり方について考えます。

日時　7月5日（金）19:00～
場所　和歌山県民文化会館 特別会議室
登壇者　本多友常さん（和大名誉教授）、中西重裕さん、中西竜彦さん、橋本雅史さん、辻本仁至さん
参加費　無料（事前申込み必要・6月30日締切）
申込み・問い合わせ　和歌山県建築士会（TEL 073-423-2562・FAX 073-433-2772）

●こがねぐも相撲大会

毎年恒例のこがねぐも相撲大会、今年も開催です。

日時　7月7日（日）10:00～14:00
場所　海南市わんぱく公園
参加費　対戦参加者は 500 円。観覧無料。
定員　30名（事前申込み必要）
問い合わせ　海南市わんぱく公園（073-484-5810）

●きみの暮らし講座住宅改修ワークショップ

田舎暮らしを考えている方を対象にした住宅改修ワークショップです。

日時　7月13日（土）9:00～16:00
場所　紀美野町三尾川地区（集合は紀美野町役場美里支所）
参加費　500円（保険料など）
内容　床板張替えなどの体験、田舎暮らし質問受付など
定員　約10名（事前申込み必要・7月10日締切）
問い合わせ・申込み　きみの定住を支援する会（073-495-2339）
備考　汚れてもいい服装で。弁当、飲み物、タオル、軍手等持参。

このほかの情報もたくさん掲載！
「わかやまイベントボード」URL
PC 版　http://eventboard.shiminjuku.jp/
携帯電話版　http://eventboard.shiminjuku.jp/m/

JI-MO TIMES Vol.1

地元・和歌山の未来のために！

一般財団法人わかやま地元力応援基金　理事長 **石橋幸四郎さん**

印南町在住。
株式会社石橋社長、
和歌山県中小企業家同友会代表理事など。

原点

「和歌山の地域資源、特に山林を活かしたビジネスで雇用を生み出したい。」

みなべ町（旧南部川村）に四男として生まれ、中学校を卒業するまで家業の林業や梅栽培を手伝っていた。

大学卒業後、大阪の化学メーカーを経て、義父が経営する印南町の石油販売会社に入社。15年間社員として働いた後、社長に就任。就任後は、自社のガソリンスタンドをセルフ給油方式に転換するなど、いち早く時代の流れを読み、社長としてその手腕を発揮する。

また経営について学ぶため、今から21年前に経営者の学校である中小企業家同友会の門を叩く。そこで、和歌山で頑張っている企業経営者と出会い、自社でも社会貢献にもっと取り組みたいと思うようになり、近年では、高齢者や障がい者にも働く場を提供するため、福祉方面にも積極的に事業を展開。

石橋さんは言う、

「ひとは自分と家族を守るため、一生懸命に働く。社員や取引先、地域のお客様、みんなが良くならないとビジネスは安定しないと気づいた。」

どうして理事になったのか

平成23年の春、全国で立ち上がりつつあった市民コミュニティ財団の研究会に参加し、その研究会メンバーたちと「立場は違えど、地域課題の解決のためがんばっている市民活動団体と、企業の連携が和歌山はまだまだ弱い。寄付を切り口に両者が力を出し合える市場のような母体が作れないか。」と考え、一般財団法人わかやま地元力応援基金（通称：地元力財団）を設立、理事長に就任した。

メッセージ

地元力財団が果たしたい役割について伺った。

「次の世代を担う子ども達のために、和歌山をもっと良くしたい。大学を卒業したあと帰って来られるように、和歌山県人として誇りをもってもらうために、地元に支えられ地元を支える仕事をつくりたい。若い世代が仕事に集中できるよう、子どもとその両親を地域ぐるみで支える仕組みに変えていきたい。」

【コーナー紹介】
今号からスタートする「JI-MO TIMES」では、昨年 10 月に設立した一般財団法人わかやま地元力応援基金の取り組みをご紹介するほか、財団の役員からのメッセージを掲載していきます。

地元力財団 わかやま地元力応援基金

640-8331
和歌山市美園町 5-6-12（みその商店街東通り）
Tel.073-428-0011　Fax.073-428-0012　URL www.jimotofund.com

取材：出原敬介
編集：児玉夏希